

# 活動紹介!

## 美研の造形絵画・人物画講座

造形絵画は、主に静物画・風景画・構成画などを中心に制作する絵画教室です。毎週水曜日の午後に活動しています。人物画講座は、主に人物画を中心に制作する教室です。毎週金曜日の午後に活動しています。

いずれも各自が選んだ題材、画法を用いて、先生の指導を受けながら、丁寧に仕上げていきます。毎年6月本館ギャラリーで絵画展「煉瓦の会」を開催しています。



## 11月の催しから

- 2(土)
  - ・三姉妹ライブ
- 3(日)
  - ・中辻ピア / 教室発表会
  - ・赤木ピア / 教室発表会
- 4(月)
  - ・真田ピア / 教室発表会
  - ・森田ピア / 教室発表会
- 9(土)
  - ・Y.Yダンス発表会
- 10(日)
  - ・牧口ピア / 教室発表会
- 16(土)
  - ・池袋ウィンドゥアンサンブル演奏会
- 17(日)
  - ・東久留米文化協議会朗読の集い
- 23(土)
  - ・全レク一座コンサート
  - ・宮地楽器ミュージカル
- 24(日)
  - ・日向テレマークダンス発表会
  - ・野澤 三味線・琴演奏発表会
- 28(木)
  - ・稲門会・成美教育文化会館 共催映画会
- 30(土)
  - ・ぴゅあとーんピア / 教室発表会

これらはあくまでも予定ですので変更もございます。一般の方の参加の可否等、詳細は主催者までお尋ねください。



## 会館事務室から



## 今月の話題 — そば屋

その時期が来ると、そば屋さんの店先に「新そばが入りました」などといった貼り紙が見られるようになります。新そばの時期は夏と秋の2回あって、今は秋の新そばです。採れたての新そばにはそれぞれ独特の風味があって、そば好きにはうれしい時期です。

今のように麺（切りそば）として食べるようになったのは、江戸時代より少し前のことです。それ以前は、粒のままお粥にするか、挽いて粉にしたものを蕎麦がきのようにして食べていたようです。切りそばにした方が食べやすく、だし汁にもよく絡んでおいしいと思われたのでしょう。当時、全国各地でそばは食べられていましたが、ファーストフードのそばは、とりわけせっかちな江戸っ子の間でたちまち人気となりました。1860年の江戸町奉行所の調べによると、市中に3763件のそば屋があったとされています。これに加えて、屋台を担いで売り歩くそば屋が相当数あったのですから結構な数です。以来、そばは日本の国民食となって現在に至っています。

米の消費は減ってもそばの消費は堅調で、日本人の食生活にしっかりと根付いています。そば屋を昔ながらの専門店と駅前などに展開するチェーン店の二つに分けるとすれば、「新そば」の貼り紙を貼りだすのは昔ながらのそば屋が多いようです。昨今、ややチェーン店に押され気味で、その数は少しずつ減っています。チェーン店にもよさはありますが、材料にも作り方にも、味にもこだわるとの特長を生かして、これからも存在感を示し続けて欲しいと思います。

